

家畜衛生広報



ながの

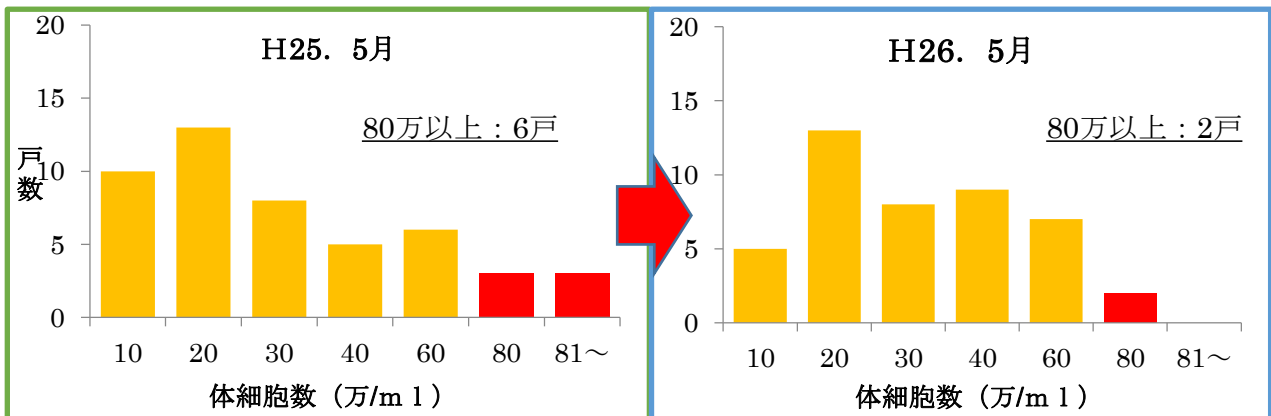
長野家畜保健衛生所
北信家畜畜産物衛生指導協会
〒380-0944 長野市安茂里米村1993
Tel 026-226-0923 Facs.026-227-2665
E-mail: nagakachiku@pref.nagano.lg.jp

平成26年度「みんなで取り組む乳質改善事業」 第一回バルク乳検査結果から

一昨年より実施している管内全戸バルク乳検査ですが、本年度第一回目の結果を取りまとめましたのでお知らせします。

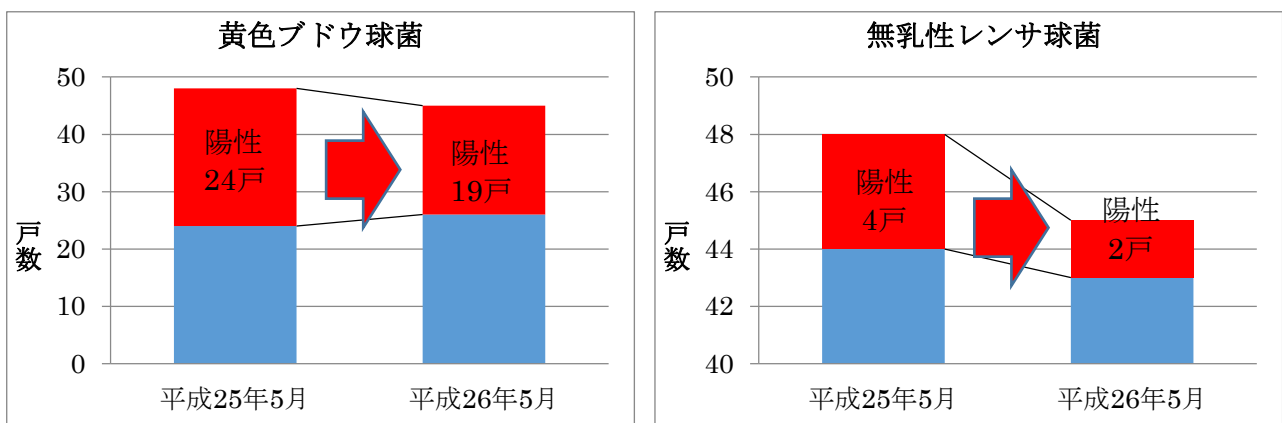
体細胞数

前年5月に比べて80万個/mL以上の農家戸数が減少しています。



伝染性乳房炎起因菌

前年5月に比べて陽性戸数が減少しています。



引き続き、乳質改善に御協力をお願いします。

なお、本年度第2回目のバルク乳検査は、10月頃の予定です。

問い合わせ・連絡先 長野家畜保健衛生所 環境指導課 (担当: 山本修、徳武慎哉)

バルク乳検査結果に基づくケース別の対応

1 黄色ブドウ球菌(SA)が検出された場合

牛群内に SA 感染牛がいます。菌数の多少にかかわらず対策をとりましょう。
 全頭の細菌検査を行い、感染牛（感染分房）を特定し、搾乳順序を最後にするなど
 の当面の対応を行い、淘汰、乾乳治療、経過観察などの対策を決めます。
 なお、個体乳の検査を行っても、SA が検出されない場合があります。これは SA 感
 染牛であっても、排菌していない場合があるためです。体細胞数が高い牛は感染の疑
 いがあるので、再度検査を行います。

2 無乳性レンサ球菌(SAG)が検出された場合

牛群内に感染牛がいます。SAG は SA と異なり、常に排菌されるため、感染牛の特定
 は簡単です。体細胞の高い牛を中心に個体乳検査を行い、感染牛の治療を行います。

3 環境性ブドウ球菌、環境性レンサ球菌が多い場合

環境性ブドウ球菌や環境性レンサ球菌が検出されても、牛がこれらの菌に感染して
 いるとは限りません。これらの菌は環境に由来するので、菌が多数検出された場合は、
 環境や搾乳衛生に問題があり、環境性乳房炎に罹る可能性が高いと考えられます。
 牛床の汚れや乾燥状態を確認し、乳房や乳頭の汚れを少なくしましょう。また搾乳
 手順や搾乳方法を見直し、とくに乳頭の清拭方法をチェックしましょう。

4 大腸菌、耐熱性菌が多い場合

これらが多い場合は、搾乳機器の洗浄殺菌に問題があります。搾乳システムの洗浄
 状態やライナーゴムの劣化をチェックしましょう。大腸菌数が多く、耐熱性菌が少な
 い場合は、搾乳衛生の不良が考えられます。搾乳手順を再度検討しましょう。

5 低温細菌が多い場合

バルク乳の冷却不足やバルクタンク・ミルクラインの洗浄不足が考えられます。き
 ちんと冷却されているかチェックしましょう。

正しい搾乳手順のまとめ (家畜改良事業団 HP から)

過搾乳など、誤った搾乳手順が体細胞の増加を招きます。オキシトシン効果を考慮した搾乳をおこなきましょう！



踏み込み消毒槽は伝染病予防の第一歩
 まずは踏み込み消毒槽を畜舎に置きましょう